**【参考資料】教育的ニーズを整理するための調査事項の例（注意欠陥多動性障がい）**Word版

　以下の資料は、注意欠陥多動性障がいの子どもの教育的ニーズを整理するための三つの観点を踏まえて調査票の参考例として調査事項等を示したものである。

|  |
| --- |
| **１　注意欠陥多動性障がいのある子どもの教育的ニーズについて～教育的ニーズを整理するための観点～****①　注意欠陥多動性障がいの状態等の把握** |
| 視　点 | 事　　項 | 記　　録 |
| 医学的側面 | 障がいに関する基礎的な情報の把握 |  |
| 既往・生育歴 |  |
| 幼児期の発達状況 |  |
| 不注意、衝動性、多動性の状態 |  |
| 併存している障害等の有無 |  |
| 服薬治療の有無 |  |
| 心理学的教育的側面 | 発達の状態等に関すること |  |
| 生活リズムの形成 |  |
| 基本的な生活習慣の形成 |  |
| 遊びの状況 |  |
| 社会性 |  |
| 本人の障がいの状態等に関すること |  |
| 学習意欲や学習に対する取組の姿勢や態度、習慣 |  |
| 感覚や認知の特性 |  |
| 社会性 |  |
| 身体の動き |  |
| 学習の状況 |  |
| 自己理解の状況 |  |
| 諸検査等の実施 |  |
| 行動観察 |  |
| 留意点を踏まえた結果 |  |
| 認定こども園・幼稚園・保育所、児童発達支援施設等からの情報の把握 |  |
| 集団生活に向けた情報 |  |
| 成長過程 |  |
| **②　注意欠陥多動性障がいのある子どもに対する特別な指導内容** |
| 注意集中の持続に関すること |  |
| 行動の調整に関すること |  |
| 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること |  |
| 姿勢保持の基本的技能に関すること |  |
| 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること |  |
| 集団への参加の基礎に関すること |  |
| 行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること |  |
| 言語の受容と表出に関すること |  |
| 障がいの特性の理解に関すること |  |
| 情緒の安定に関すること |
| **③　注意欠陥多動性障がいのある子どもの教育における合理的配慮を含む必要な支援の内容** |
| ア　教育内容・方法 | （ア）教育内容 |  |
| 　ａ　学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮 |  |
| 　ｂ　学習内容の変更・調整 |  |
| （イ）教育方法 |  |
| 　ａ　情報・コミュニケーション及び教材の配慮 |  |
| 　ｂ　学習機会や体験の確保 |  |
| 　ｃ　心理面・健康面の配慮 |  |
| イ　支援体制 | (ア)専門性のある指導体制の整備 |  |
| (イ)子ども、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮 |  |
| (ウ)災害等の支援体制の整備 |  |
| (ア)発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮 |  |
| (イ)災害等への対応に必要な施設・設備の配慮 |  |

|  |
| --- |
| **２　学びの場について** |
| 設置者の受け入れ体制 | 小・中学校等の状況 |  |
| 本人・保護者の希望 | 希望する学びの場 |  |
| 希望する通学方法 |  |

|  |
| --- |
| **３　その他** |
| 併せ有する他の障がいの有無と障がい種 |  |
|  |  |

参考・引用：文部科学省初等中等教育局特別支援教育課「障害のある子供のための教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～（令和3年6月）